

運動学Ⅱ		講義	准教授 牛島 詳力	
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目		科目ナンバリング	12311401

1. 授業のねらい・概要

ここでの「運動学」とは人体を対象とした身体運動を主としている。人間が体を動かす際、骨が単独で作用するわけではない、必ず筋や神経などの機関が連携してひとつの動作が生まれる。そのことを理解したうえで、人間の身体に関わることを生業とするのであれば「身体運動」を学ぶことは必然的ではないかと考える。

本授業では解剖生理学を基礎とした上で、それぞれがどのように身体と関わっていくかをより深く学習し、医療従事者としての基本的知識を身につける。

2. 授業の進め方

授業では配布資料と板書を活用する。

3. 授業計画

<ul style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 運動の表し方 2. 身体運動と力学 3. 関節運動の面と軸・関節の分類 4. 反射と随意運動 5. 姿勢 6. 四肢と体幹の運動・体幹とその他 7. 四肢と体幹の運動・上肢 8. 四肢と体幹の運動・上肢と下肢 	<ul style="list-style-type: none"> 9. 四肢と体幹の運動・下肢 10. 歩行と異常歩行 11. 運動発達・全身と歩行、上肢 12. 運動学習 13. 運動発達・反射 14. 運動機能の構造と機能 15. 運動感覚
--	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に配布した資料に目を通し、わからない単語があれば事前に調べておくこと（およそ30分間）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

「身体運動」の必要性を確認する。

「運動学」を通じて解剖生理学の理解を深める。

医療従事者としての基礎的な知識ならびに国家試験に対応した知識を身につける。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験の結果（100%）より評価する、他の要素は含まれない。

8. テキスト・参考文献

テキスト：（社）全国柔道整復学校協会 監修、『運動学 改訂第3版』、医歯薬出版、2012年

参考文献：Oatis, C 「オーチスのキネシオロジー 身体運動の力学と病態力学」ラウンドフラット、2012年
その他、授業内容に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、接骨院やプロスポーツチームにおける実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。